

「人間関係」をどのように育てているか
-人間関係に困難さのある幼児への指導・支援を通して-
中澤幸子¹⁾・田中卓也¹⁾

How Nursery School Teachers Develop “Human Relationships”: Through Teaching
and/or Supporting Infants with Difficulties to Communicate with Others.

Sachiko Nakazawa, Takuya Tanaka

Abstract

The purpose of this study is to research how nursery school teachers teach and/or support infants who have difficulties in communicating with others and what difficulties they feel about and to consider how they teach and/or support better about the newly announced contents of childcare “human relationships.”

Keywords: Human Relations, Childcare Content "Human Relations", Early childhood

I. 問題の所在及び目的

人が成長し、生きていくためには、人間関係が重要な要因である。そして、子どもの成長発達には適切な人間関係が欠かすことはできない。Vygotsky (1987)¹⁾ は、発達の最近接領域という概念を用いて、子どもは孤立した存在ではなく、大人や仲間といった意味のある他者との相互作用や援助を受けながら発達する存在であることを指摘している。日本において幼児の人間関係については、幼稚園教育要領1989(平成元)年²⁾の改訂において6領域から子どもの発達の側面から5領域に再編された際に領域「人間関係」が設けられた。また1990(平成2)年改訂の保育所保育指針³⁾でも、3歳児から6歳児までの保育内容に「人間関係」が取り入れられた。また、2008(平成20)年改訂⁴⁾では、年齢に関係なく保育の内容として明記された。このように幼児期の人間関係に焦点が当てられるようになったのは、幼児期の発達にとって、人間関係は重要な視座を与えるものであるという考えが社会的

に認知されるようになったからであると示唆される。

中央教育審議会(以後「中教審」とする)の「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について(答申)」(2005)⁵⁾によると、「少子化、核家族化、都市化、情報化、国際化など我が国経済社会の急激な変化を受けて、人々の価値観や生活様式が多様化している一方で、社会の傾向としては、人間関係の希薄化、地域における地縁的なつながりの希薄化、過度に経済性や効率性を重視する傾向、大人優先の社会風潮などの状況が見られる」ということが、こどもの育ちの社会的背景として提示されている。このように、幼児期の豊かな人間関係の形成は求められており、乳幼児期からの子どもの成長、そしてそれに関わる親や保育士・教師、そして社会として取り組むべき課題である。

さらに近年の保育現場では、障害のある子どもや、診断名はないが保育を行う上で配慮を要する子どもが増加傾向にあり、保育上

¹⁾ 静岡産業大学経営学部
〒438-0043 静岡県磐田市大原1572-1

¹⁾ School of Management, Shizuoka Sangyo University
1572-1, Owara, Iwata-shi, Shizuoka

の課題があるとされている。(郷間・圓尾・宮地; 2008、河野: 2010)⁶⁾⁷⁾。そのような幼児の多くは、コミュニケーションや人間関係に困難さがみられる傾向がある。しかしながら、2017(平成29)年告示の保育所保育指針(厚生労働省)⁸⁾、幼稚園教育要領(文部科学省)⁹⁾、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省)¹⁰⁾、いずれも1歳から3歳未満、3歳以上と発達年齢に合わせた人間関係の内容が提示されたが、その指導や支援方法の詳細は示されていない。そして、現場の保育士・教員は、手探りで人間関係に困難さのある子どもへの指導・支援も行っている。

以上より、本研究では、新しく告示された保育内容における「人間関係」について、人間関係に困難な子どもにどのように指導・支援を行っているか、どのようなこと困難さを感じているか、ということ調査し、よりよい指導・支援の方向性を考えることを目的とする。

Ⅱ. 研究方法

1. 調査対象

私立Aこども園に所属して、園児の指導を担当している保育士・幼稚園教諭・保育教諭合計19人(3歳児未満担当者7人、3歳以上担当者12人)

2. 調査期間

平成××年12月下旬～平成××+1年1月上旬

3. 調査方法

1) 質問紙による調査を実施する

2) 調査用紙の種類

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に提示されている「人間関係」の内容は、1～3歳未満と3歳以上で異なることから、それぞれの子どもの担当者用に、2種類の調査用紙を作成する。

3) 調査用紙の配布・回収

各調査用紙をAこども園園長に直接、配布の依頼をし、担当職員に直接配布し、回収も同様とした。

4) 回答の有効性について

選択記号がすべて適切に回答されている回答のみを有効回答として処理する。

4. 調査内容

以下の質問項目を設け、調査を実施する。

1) 1～3歳未満児担当者

① 指導者の属性(性別、年代、所有資格、経験年数)

② 人間関係に困難な子どもに対する「人間関係」の指導・支援の状況

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の「人間関係」の1～3歳児未満児に示されている内容6項目について、「十分にできている」「まあまあできている」「十分にはできていない」「ほとんどできていない」の4件法での回答と、具体的な指導・支援内容の記載(自由記述)

③ 「人間関係」の指導・支援で困っていること(自由記述)

2) 3歳以上担当者

① 指導者の属性(性別、年代、所有資格、経験年数)

② 人間関係に困難な子どもに対する「人間関係」の指導・支援の状況

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の「人間関係」の3歳以上の幼児に示されている内容13項目について「十分にできている」「まあまあできている」「十分にはできていない」「ほとんどできていない」の4件法での回答と、具体的な指導・支援内容の記載(自由記述)

③ 「人間関係」の指導・支援で困っていること(自由記述)

5. 倫理的配慮

調査の実施及び配布は、Aこども園の園長に直接依頼し、許可を得た。質問の内容についても、同園長に確認を図り、承諾を得た。調査の目的及び得られた事項は匿名化を図ったうえで、研究発表及び報告書等にて公表することを明記している。

Ⅲ. 結果

調査対象者より得られた結果を、以下に報告する。

1. 1歳～3歳未満児の指導担当者

7名の指導者より回答が得られ、有効回答数は7枚であった。

1) 回答者の属性

有効回答として処理された7名の回答者の属性は表1のとおりである。

表1. 回答者の属性（1～3歳児未満担当者）

| 年齢 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | (単位:人) | |
|------|------|------|-------|------|--------|-----|
| | 1 | 1 | 3 | 2 | | |
| 所有資格 | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | | |
| | 7 | | 7 | | | |
| 経験年数 | 2年 | 4年 | 10年 | 11年 | 16年 | 18年 |
| | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 |

回答者は全員女性であり、保育士資格・幼稚園教諭免許状も全員が所持していた。また、年齢構成は20歳代から50歳代、経験年数も2年から18年と幅広い職員構成である。

2) 人間関係の指導・支援について

質問紙調査で求めた「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の「人間関係」の1～3歳児未満児に示されている内容6項目の指導・支援状況について「十分にできている」「まあまあできている」「十分にはできていない」「ほとんどできていない」の4件法での回答と、具体的な指導・支援内容の記載(自由記述)、「人間関係」の指導・支援で困っていること(自由記述)、より得られた結果は表2のとおりである。

4件法にて回答を得た6項目のうち、「2. 保育士の受容的・応答的かわりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす」「5. 園での生活のしかたに慣れ、決まりがあることや、その大切さに気付く」の項目に若干の指導・支援が「十分にできていない」という回答がみられた。全体としては、1～3歳未満児の場合、ほとんどが支援・指導は「十分にできている」「まあまあできている」といった回答であった。特に、「6. 生活や遊びの中で、年長児や保育士の真似をしたり、ごっこ遊びをしたりする」という項目は、支援・指導が「十分にできている」が71%と、最も高い評価であった。しかしながら、「人間関係」の指導・支援での困難がないわけではなく、回答者全員から、困っていることの自由記述による回答

が記載されていた。

2. 3歳以上の幼児の指導担当者

1) 回答者の属性

回収した調査用紙は12人であったが、有効回答率は11人分(92%)である。その有効回答者の属性は表3のとおりである。

表3. 回答者の属性（3歳以上の幼児担当者）

| 年齢 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | (単位:人) | | | |
|------|------|------|-------|------|--------|----|-----|-----|
| | 6 | 4 | 1 | 0 | | | | |
| 所有資格 | 保育士 | | 幼稚園教諭 | | | | | |
| | 10 | | 11 | | | | | |
| 経験年数 | 1年 | 2年 | 3年 | 5年 | 6年 | 8年 | 10年 | 27年 |
| | 1 | 1 | 3 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 |

回答者は全員女性であり、幼稚園教諭免許状は全員が、また、保育士資格は10人が所持していた。年齢構成は20歳代が半数以上であり、経験年数も10年未満がほとんどである。さらに、3年未満が約半数というメンバー構成で指導が行われている。

2) 人間関係の指導・支援について

質問紙調査で求めた「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の「人間関係」の3歳以上の幼児に示されている内容13項目の指導・支援状況について、「十分にできている」「まあまあできている」「十分にはできていない」「ほとんどできていない」の4件法での回答と、具体的な指導・支援内容の記載(自由記述)、「人間関係」の指導・支援で困っていること(自由記述)、より得られた結果は表4のとおりである。

4件法で回答された項目のうち、支援・指導が「十分にできている」「まあまあできている」の回答が100%であった項目は「11. 友達と楽しく生活する中で、決まりの大切さに気付く、守ろうとする」のみであり、90%であったのは、「7. 友達のよさに気付く、一緒に活動する楽しさを味わう」であった。また、支援・指導が「十分にはできていない」「ほとんどできていない」に半数以上が含まれる回答が集まった項目として、「2. 自分で考え、自分で行動する」「6. 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く」「8. 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見出し、

表2. 「人間関係」についての指導・支援について (1～3歳未満児担当)

n=7

| 質問項目 | 十分に できて いる | まあまあ できて いる | 十分には できて いない | ほとんど できて いない | 具体的な指導・支援内容例 (全回答より抜粋) |
|---|------------------|-------------------|--------------------|--------------------|--|
| 1. 保育士や周囲の園児等との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる | 1 (14%) | 6 (86%) | 0 (0%) | 0 (0%) | <ul style="list-style-type: none"> 常に笑顔を大切にして、園児と触れ合うようにしている 適度に息抜きができるようにする。 一対一対応で、<u>信頼関係を築く(保護者と)</u> 保育士と子どもの信頼関係をつくり、<u>家庭の状況、育ちを把握</u>したうえで、本児に関わっていく。 子ども同士の仲立ちとなれるよう、<u>その子の思い、予想される行動を職員全員で共通理解</u>しておく。 <u>子どもとの信頼関係を十分に築き</u>、沢山抱っこをしたり、スキンシップをとるようにしている。 |
| 2. 保育士等の受容的・応答的なかわりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす | 0 (0%) | 5 (71%) | 2 (29%) | 0 (0%) | <ul style="list-style-type: none"> 集団に入れない子、場面場面で不安になってしまう子に対して対面抱っこをして話を聞いた上で、<u>その子にあった言葉かけ</u>を心掛けている。 複数担任の中で安心できる (その子により違う) 保育者との関係を密にして、十分安心できるようになってから、様々な保育者、大人へのかかわりを広げることで、子どもが受け止めてほしいとき、すぐに (どの職員も) 丁寧に応答することができる。 毎日、<u>ねらいをもった小さな活動</u>をしているので、<u>毎日違う経験</u>を子どもたちはする中で、<u>満足感を味わっている</u>と思う。 その日その日で、子どもの気持ちが違うので、<u>その日の子どもの様子を丁寧に観察</u>して、<u>子どもに関わるようにしている</u>。 |
| 3. 身の回りに様々な人がいること気付く、徐々に他の園児との関わりをもって遊ぶ | 2 (29%) | 4 (57%) | 1 (14%) | 0 (0%) | <ul style="list-style-type: none"> 単独で動く、指示が通らない、集団に入れないことが多いため、<u>友達と関わることの楽しさ</u>を保育者と一緒に楽しみながら輪に入れるように促している。 園外へ散歩に出かけるときには、畑作業をしている方や、すれ違った方に挨拶をしたり、地元の老人の方をまねいて、一緒に活動したり、<u>園周辺に住んでいる方とのふれあい</u>を大切にしています。 楽しく名前や顔を知ることができる遊びを取り入れたり、子どもや保育者の名を意識して呼び合うことで、<u>耳と目で感じ、子どもも周りに興味を持ち始めてくれる</u>。 クラス、1つ上のクラスと一緒に、リズム遊びを楽しんだり、年長児と一緒に雑巾リレーをして遊ぶなど、異年齢との触れ合いも大切にしています。 互いの気持ちを十分に受け止める。言葉でうまく伝えられない年齢なので、気持ちを保育者が代弁していく。 言葉が話せなかったり、十分ではないので、常に<u>気持ちを代弁して</u>、お互いに気持ちよい生活ができるようにしている。 |
| 4. 保育士の仲立ちにより、他の園児との関わり方を少しずつ身につける | 0 (0%) | 6 (86%) | 1 (14%) | 0 (0%) | <ul style="list-style-type: none"> 子ども同士のぶつかり合いがみられた時には、見守りながら双方の思いをまず読み取り、相手の気持ちを伝えて気付かせている。 話をじっくり聞き、受け止めたり、同意、共感するが、やはり継続性はない。他人と関わるのが苦手な子は時間がかかる。(日々の積み重ねを大切にしている、) 一つ上のクラスと一緒に、リズム遊びを楽しんだり、年長児と一緒に雑巾リレーをして遊ぶなど、異年齢との触れ合いも大切にしています。 互いの気持ちを十分に受け止める。言葉でうまく伝えられない年齢なので、気持ちを保育者が代弁していく。 言葉が話せなかったり、十分ではないので、常に<u>気持ちを代弁して</u>、お互いに気持ちよい生活ができるようにしている。 |
| 5. 園での生活の仕方に慣れ、きまりがあることや、その大切さに気付く | 2 (29%) | 3 (42%) | 2 (29%) | 0 (0%) | <ul style="list-style-type: none"> きまり、約束など子どもと一つ一つ確認し、<u>なぜ守るのかを伝えて</u>いる。 一つずつ<u>見本を見せて</u>おさえてやっている。子どもと触れ合いながら、気づかせていき、その度、声かけをしている。 トイレや手洗いの時などの順番、玩具の貸し借りなど、保育者も<u>動作や言葉で具体的に伝えて</u>います。 毎日、毎回、語りかけながら一緒に支度したり、活動していくこと (<u>丁寧に繰り返していくことが大切</u>) 0・1歳児にできる範囲の生活習慣だけは日々積み重ねて覚えていけるが、それ以上のきまりのようなものは、まだ難しいと思う。 初めての集団生活なので、一つ一つ丁寧に子どもに伝えていきます。 |
| 6. 生活や遊びの中で、年長児や保育士の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする | 5 (71%) | 2 (29%) | 0 (0%) | 0 (0%) | <ul style="list-style-type: none"> 子どもも要求を受け止め、状況に合った言葉を添えながら、<u>保育者も一緒に</u>なって、ごっこ遊びを楽しんでいます。 保育や生活の中で、<u>大きいクラスの話を</u>出したり、集会などに3歳未満児の参加のしかたでできるようにする。<u>雑巾レースなど同じことを一緒にやっ</u>て感じ合う。 まねっこやごっこ遊びは大好きで<u>常に取り入れている</u>。子ども自身がみて、身につけていることもある。 年長さんと雑巾レースをしたり、年長さんが午睡後の手伝いに来てくれる |
| 7. 子どもの指導・支援で、困っていること | | | | | <ul style="list-style-type: none"> どのように伝えれば子どもの心に届くかわからず、声掛けに悩んでしまうことがある。 お家のほうに園での様子を伝え、家庭の様子も教えてもらい、情報交換をして、困っている事を伝えあっている。小さなことも褒めていく。 家庭。特に母親の協力が必要なので、それを理解してもらうのがなかなか難しいケースがある。 園での関わりを保護者に伝え、家でもよい関わりをしてほしいと願っているが、丁寧に伝えても、なかなか変わらない保護者がいる。共に育てていく思いだが、<u>仕事をしている保護者は余裕がない方が多い</u>。 子育てがスマホやテレビ中心で<u>楽しさを求める親が増えている中、その育て方が小学校へ行き、友達とのコミュニケーションが上手いかず、不登校になりがち</u>。そうならないためにも、3才までの親子関係を大事に、人間対人間のやりとりが大切であることを、どう、上手く伝えていけばいいのか・・・と思う。 まだ小さく言葉がうまく使えず、噛みついてしまったりするので、その都度その子の心が安定しているか?家庭ではどうか?いい方法を見つけている。 |

*下線は筆者が、考察の使用箇所として引いたものである。

「人間関係」をどのように育てているか

表4. 「人間関係」についての指導・支援について（3歳以上の幼児担当） n=11

| 質問項目 | 十分に できて いる | まあまあ できて いる | 十分には できて いない | ほとんど できて いない | 具体的な指導・支援内容例（全回答より抜粋） |
|---|---|-------------------|--------------------|--------------------|--|
| 1. 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。 | 3 (27 %) | 6 (55 %) | 2 (18 %) | 0 (0 %) | <ul style="list-style-type: none"> ・集団遊びをたくさんして<u>楽しいと思える機会を増やしている</u> ・まずは友達の前に保育士と信頼関係づくり ・正面に立ち、目と目を見て話をする。 ・時間がとれる時には、<u>本児と一対一で遊ぶ時間を作った</u> ・一日一回は、かごめかごめなど、クラス全体で遊べるものをやっている。 ・他児との関わりを増やしたり、喜びを感じられる場を設けている |
| 2. 自分で考え、自分で行動する。 | 1 (10 %) | 4 (36 %) | 6 (55 %) | 0 (0 %) | <ul style="list-style-type: none"> ・やる事を先に声をかけ、わからなくなったら、「<u>どうしたのかな？何困っているのかな？</u>」とまた声掛けをして、<u>自分の口から困っていることを言えるようにする</u>。 ・行動力はある。そこに他児が加わってくると、加減が必要な時がある。<u>本児の気持ちや考えを認めつつ、促す</u>。 ・朝の会で1日の目的(流れ)を具体的に伝え、自分で考えて動けた子には、<u>集団の中で褒め、認めていく</u>。 |
| 3. 自分でできることは自分でする | 3 (27%) | 6 (55%) | 2 (18%) | 2 (18%) | <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードにやるべきことを絵と文字で記入する ・できることを少しずつほめていくようにする ・「できない」と伝えてくる子にも、「一緒にどうやったらできるか、考えてみよう」と伝えている。 ・「自分のことは自分で」と進級時から子どもにも親にも伝えてきた。できたときは、みんなの前で褒めていく意識をした。 |
| 4. いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。 | 2 (18%) | 7 (64%) | 2 (18%) | 0 (0%) | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが夢中になれるものを見つけ、<u>一緒に楽しむ</u>ことで、子どもたちの興味や関心を更に深めることができるようする。 ・少しずつ<u>目標を決めて毎日共に取り組む</u> ・一緒に挑戦したり、賞状を用意し、<u>自信をもてるようにする</u>。 ・できていなくてもほめる。「でも、もっとこうしたらよくなる」と伝える。 |
| 5. 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う | 0 (0%) | 3 (27%) | 3 (27%) | 1 (10%) | <ul style="list-style-type: none"> ・周りの友達の良いところ夢中になれるもの、やってみたいことを一緒に見つけ、<u>喜びを感じたり、気持ちを言葉にして伝えていく</u>。 ・周りの子に遊びに誘ってもらえるように声をかける。 ・嬉しいね、悲しいね、という風に、<u>気持ちを言葉と表情と一緒に表現してあげる</u> ・友達を応援する時間をとっているが、ずっと座っていることができない子がいるため、常に声をかけている |
| 6. 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。 | 1 (10%) | 3 (27%) | 6 (55%) | 1 (10%) | <ul style="list-style-type: none"> ・「<u>どうしたのかな？</u>」「<u>どうしたいのかな？</u>」など、<u>気持ちを会話の中で引き出してあげる</u>。(時には代弁して) ・どう思ったのか、<u>互いに伝えられるように声をかける</u> ・自分の思いを伝えづらい。言葉としてではなく、表情という形で伝えるになっているので、<u>本児の気持ちを他児に伝える手助けをしている</u>。 ・言葉で伝える大切さを、<u>進級時に伝えた</u>。 ・保育者が気持ちを受け止め、代弁する中で、本人が気持ちを伝えたり、相手の気持ちに気づけるように促している。 |
| 7. 友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。 | 1 (10%) | 9 (82%) | 1 (10%) | 0 (0%) | <ul style="list-style-type: none"> ・出来た達成感をみんなで味わうことができるようにする ・少し気の合いそうな子を見つけ、<u>グループの時に同じグループにしたり</u>、保護者にその子とかかわっているときの様子を伝え、保護者同士も仲良くできるようにする。 ・友達と共有できるように、<u>机に座るときの組み合わせ等</u>を考える。 ・その時の想いを<u>言葉にして伝える</u>。 ・帰りの会で、「お友達のよい所見つけたよ!」を取り入れた。相手のよさを見つけ、その子の楽しさや面白さも感じられるようになった。 |
| 8 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする | 1 (10%) | 3 (27%) | 7 (64%) | 0 (0%) | <ul style="list-style-type: none"> ・お互いに方法や見つけたことを教えあうことができるようにする ・<u>集団で協力できるように大きな作品を作った</u>。 ・<u>チームで活動したり</u>、班を決め、班活動を増やした。チームで団結し、達成感を感じられるように促したことで、担任がいなくても協力できるようになった。 ・保育士も一緒に入り、気持ちをひきだしながら<u>友達の輪に入っていける様にしむける</u>。 |
| 9. よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。 | 2 (18%) | 5 (45%) | 4 (36%) | 0 (0%) | <ul style="list-style-type: none"> ・本人はわかっていても、流される時が多い。 ・その都度<u>どうしてだめなのか、よいのかを伝える</u>。 ・自ら気づけるように、よいところを取り上げて<u>伝える</u>。<u>周りの子に良いところを発見してもらい、取り上げていく</u>。 ・実際に自分が悪い例をして、子どもが気づけるようにしている |
| 10. 友達との関わりを深め、思いやりをもつ | 1 (10%) | 5 (45%) | 5 (45%) | 0 (0%) | <ul style="list-style-type: none"> ・ひとりの子がいたら、誘うなどの声掛けをする。 ・相手の気持ちを表情を見て感じられるよう、先生が声をかける ・相手の立場に立って教えることがまだ難しい子が多く、「<u>自分がされたらどうか？</u>」を考え、自分がされて嫌なことは、相手にしないことを伝えている。 ・思いやりの話、かわわりが深まるように<u>集団遊びを増やした</u>。 |
| 11. 友達と楽しく生活する中で決まりの大切さに気付き、守ろうとする | 2 (18%) | 9 (82%) | 0 (0%) | 0 (0 %) | <ul style="list-style-type: none"> ・ルールがあるものについては、あらかじめ最初に伝え、<u>理解ができるのか確認する</u> ・繰り返し、なぜいけないのかを伝えたり、表示をする。 ・「あれ？それいいんだっけ？」と子どもが気づけるように<u>声をかける</u> ・<u>集団行動ができるように時間を決めて行動する</u>。 |
| 12. 共同の道具や用具を大切にし、皆で使う | 5 (45%) | 4 (36%) | 2 (18%) | 0 (0 %) | <ul style="list-style-type: none"> ・一つずつ「<u>大切にみんなで使うもの</u>」ということを伝えている。 ・片づけ等もみんなできるように声掛けをする。 ・扱い方が丁寧でないことがあるため、<u>保育者が丁寧に扱って見せていく</u>。 ・「貸して」「いいよ」のやり取りができるように提案したり、褒める。 |
| 13. 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しを持つ。 | 2 (18%) | 3 (27%) | 5 (45%) | 1 (10%) | <ul style="list-style-type: none"> ・老人ホームなどの訪問の機会を作っている。地域の方を園に招いて行事を行う事をしてる。環境が変わると<u>落ち着かないので、傍にいて補助していく</u>。 ・気にはなるが、警戒心も強い。間に入り、少し慣れるまでの時間を設ける。 |
| 14. 子どもの指導・支援で、困っていること | <ul style="list-style-type: none"> ・集団が苦手で、<u>クラスの活動にスムーズに入っていくことができない子</u>がいるときの対応が難しいです。 ・自分から友達に話しかけたり、遊びに誘うことがほとんどない子がいる。 ・表れが個々に違う、場面によって変わること、保護者のとの連携の大切さを感じる。 ・性格なのか、成長の関係なのかの判断による支援方法 ・今の子どもはコミュニケーションをとらず、個々で遊ぶ子が多い。それは保護者も同じ。交わろうとしない。 | | | | |

*下線は筆者が、考察の使用箇所として引いたものである。

工夫したり、協力したりなどする」「13. 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみを持つ」が挙げられる。

IV. 考察

結果より、次のことが考察される。「1歳から3歳未満児担当者」は、7名の指導者より回答が得られた。指導者全員が女性であること、また20歳代から50歳代までと幅広い年代層であること、経験年数についても2年から18年と経験の幅があった。

「人間関係に困難な子どもに対する『人間関係』の指導・支援の状況」についての回答をみると、「2. 保育士の受容的・応答的かわりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす」「5. 園での生活のしかたに慣れ、決まりがあることや、その大切さに気付く」の項目に若干の指導・支援が「十分にできていない」という回答がみられ、全体としては、ほぼ支援・指導は「十分にできている」「まあまあできている」といった回答であった。

なかでも「6. 生活や遊びの中で、年長児や保育士の真似をしたり、ごっこ遊びをしたりする」という項目は、支援・指導が「十分にできている」が71%と、最も高い評価であった。

日常生活においての子どもらへの指導は、ほぼされているが、決まりを守る、心理的な安定といった個々の子どもの実態に合わせた丁寧さが求められる指導・支援が必要な内容において、あまりできていないと感じているのは、保育士の経験年数とも関係があるのかもしれないと考えられる。しかし、回答者全員から困っていることの自由記述による回答が記載されていたことを考えると、人間関係に困難さのある子どもの指導・支援においては、保育の経験年数に関係なく、だれもがその支援や指導方法を模索しているようにも思われる。

つぎに「3歳以上の幼児担当者」の回答についてである。保育者は、全員女性であり、幼稚園教諭免許状は全員が、保育士資格は10人が所持している。また年齢構成は20歳代が半数以上であり、経験年数も10年未満がほと

んどであった、さらに、3年未満の経験者が約半数というメンバー構成で指導が行われている。「人間関係の指導・支援」について、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の「人間関係」の3歳以上の幼児に示されている内容13項目の指導・支援状況について、支援・指導が「十分にできている」「まあまあできている」の回答が100%であった項目は「11. 友達と楽しく生活する中で、決まりの大切さに気付き、守ろうとする」のみであり、90%であったのは、「7. 友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう」であった。これらが示しているように、普段の子ども園の生活において、子どもたちが経験を通して培われていることから、高い数値を示したと考えられる。園ではよく子どもを遊ばせている（遊ばせる環境が整備されている）と考えることもできよう。

また、支援・指導が「十分にはできていない」「ほとんどできていない」に半数以上が含まれる回答が集まった項目として、「2. 自分で考え、自分で行動する」「6. 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く」「8. 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見出し、工夫したり、協力したりなどする」「13. 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみを持つ」が挙げられていた。前者の3つの内容については、人間関係に困難さのある子どもの多くが元々不得手としている内容である。このことから、集団の指導場面において、なかなか困難が生じている状況であることが評価として表れているのであろう。また、高齢者や地域の人々などとの関係においては、普段の園内における生活の指導に力をいれていることもあり、園児としては応用的な行動や保護者や保育者以外の人との接点を持つということへの指導・支援については、十分ではないとの評価を感じているのではないだろうか。さらに、経験年数が浅い保育者も多い状況であることから、保育者としての経験値という面からも、十分ではないと感じているであろうことが、推測される。

V. おわりに

本研究では、Aこども園に在職している、1歳から3歳未満児担当者7名と3歳児以上の幼児担当者12名の計19名よりアンケート回答を得ることができた。回答者全員が女性、そして、20歳代から50歳代までと幅広い年代層であり、経験年数にも差がみられた。回答者の多くから、人間関係に困難さのある子どもへの「人間関係」の保育内容について、全体的な傾向としては、おおむね指導はできているという評価がされていた。その中で、「2. 保育士の受容的・応答的かわりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす」ことや「5. 園での生活のしかたに慣れ、決まりがあることや、その大切さに気付く」の項目に若干の指導・支援が「十分にできていない」という回答が得られており、人間関係に困難さのある子どもの保育場面においては難しさを感じている状況も見られた。Aこども園は若い保育者が多く勤務していることから、のびしろのある保育者が顔をそろえている。また経験を積んできているベテランの保育者も在籍している。ベテランと若手のコミュニケーションを図っていくことで、保育者としての知識や技術を高めていく可能性を秘めている。このような園の特性を生かして、人間関係に困難さのある幼児たちも含めた「人間関係」についての指導・支援について、園内外にて研修会や事例検討会などを開催し、人間関係の指導方法について学びを深めていくことで、今まで以上のよりよい指導・支援の方法が見えてくるのではないかと考える。

【引用文献・参考文献】

- 1) Vygotsky, L. S., Thinking and speech, in R. W. Rieber and A. S. Carton (Eds), The collected works of L. S. Vygotsky; Volume 1 Problem of General Psychology, Plenum Press. 1987.
- 2) 文部科学省 幼稚園教育要領 1991.
(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/old-cs/1322225.htm 2018.12.25最終閲覧)
- 3) 厚生労働省 保育所保育指針 1990.
(<http://ba.boo.jp/hoikushishin/hoikuen.pdf/> 2018.12.25最終閲覧)
- 4) 厚生労働省 保育所保育指針 2008.
(<http://www.eqg.org/oyanokai/shishinzenbun.Pdf> 2018.12.25最終閲覧)
- 5) 中央教育審議会 子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について（答申）2005. (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013102.htm 2018.12.25最終閲覧)
- 6) 郷間英世・圓尾奈津美・宮地知美 幼稚園・保育園における「気になる子」に対する保育上の困難さについての研究. 京都教育大学紀要, 113, 81-89.2008.
- 7) 河野順子 幼稚園・保育園に在籍する特別な支援を必要とする子どもたちの現状と支援に関する調査研究—個別教育支援計画実施の観点から— 東海学園大学研究紀要,15, 83-97. 2010.
- 8) 厚生労働省 保育所保育指針 2017.
(<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000160000.pdf> 2018.12.25最終閲覧)
- 9) 文部科学省 幼稚園教育要領 2017.
(www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/04/24/1384661_3_2.pdf 2018.12.25最終閲覧)
- 10) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 2017.
(https://hoyokyo.or.jp/http://hoyokyo.or.jp/nursing_hyk/reference/index.html/28-3s3-12.pdf 2018.12.25最終閲覧)

